

第 81 回総会・研究大会開催にあたって

私立大学図書館協会会長

國學院大學図書館長 遠藤 潤

このたび、みなさまのご協力・ご尽力のもと、私立大学図書館協会第 81 回総会・研究大会を開催できることを、心よりお慶び申し上げます。

とはいえ、今年はもちろん例年とは大きく開催形態を変更せざるをえませんでした。いうまでもなく、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応してのことです。総会の会議そのものはメール審議、記念講演および研究大会は Web を通じた開催という、従来経験したことのない形態での開催となりました。加盟校のみなさまにおかれましては、どうかご理解たまわれますようお願い申し上げます。

今回の第 81 回総会・研究大会にあたって、文部科学省研究振興局参事官（情報担当）付学術基盤整備室長三宅隆悟様、国立情報学研究所学術基盤推進部次長木下聡様から、それぞれご祝辞をいただきました。三宅様、木下様におかれましては、ふだんにも増してお忙しいこのような状況の中でご祝辞をたまわりましたこと、心より感謝申し上げます。

そして、この総会・研究大会を迎えるにあたって、例年とは異なる困難な条件のもとで、当番校としてなみならぬご尽力とご支援をいただいている明治大学の六野耕作学長をはじめ、明治大学図書館の南保勝美館長ならびに職員のみなさま、関係の方々に、心より御礼申し上げます。

当協会は、大学図書館が抱えるさまざまな課題に対して、加盟校相互の協力によって各大学の図書館がそれぞれの道を探ることを支え、さらには私立大学図書館全体が発展することを目指しております。総会では、令和 2 年度事業計画・予算をはじめ、協会の活動方針と事業内容などについてご審議いただきます。例年通りの事業を継続・発展させることを基調としておりますが、今の状況に鑑みて、形態を変更したり、中止したりせざるをえない事項が生じております。ご確認のうえ、ご理解いただければ幸いです。

さて、今回の研究大会のテーマは「大学図書館のコレクション構築を考える」です。これまでも、各大学の図書館では貴重資料の収集やコレクション構築がさまざまな形で行われてきましたが、昨今の大学を取り巻くさまざまな状況の変化によって、改めてその意味を考えることが必要になってきました。図書館に対して、学内外から、ときにコレクション構築の意味・意義について以前より厳しく具体的に問われることもあります。概括的には、研究・教育との関連性、大学の社会的役割における位置づけなどはすぐに想起される課題です。例えば、貴重資料の収蔵前後における基礎的な調査のみならず、本格的な学術調査・研究事業を念頭においたコレクション構築が求められる状況や、大学図書館は博物館や美術館などとともに社会の中で貴重資料収集を担う組織・機関であるという基礎的な意義だけでは納得されず、大学のブランディングや社会貢献と接続するような形でのコレクションの意味づけが求められるという状況は、すでに生じているところもあろうかと思えます。さらには、人の移動が著しく制約される現在において、デジタル化による発信・公開がこれまで以上に求められることも考えられるでしょう。そのような中で、今回のテーマは、切実な課題であるとともに大学に関わるさまざまな人々の興味を刺激するものだと考えます。開催形態こそ例年とは異なりますが、充実した研究大会になることを期待しています。

今回の新型コロナウイルスの感染拡大によって、私たちが大学図書館にとってふつうで〈あたりまえ〉だと思っていたことの大事な部分が削られてしまいました。利用者からすれば、大幅なサービス縮小に映る状況であり、他方で、大学図書館の側からすれば、図書館の外からは見えにくい形での業務拡大や担当者の負担増大が生じています。削られてしまったものを、当然あるべき〈あたりまえ〉と思うならば、今までは必要がなかった、〈あたりまえ〉を回復する努力を誰かが新たに追加的にしなければなりません。ただ、ときには、以前の状態を〈あたりまえ〉とする考え方から少し距離をとってみることも必要ではないでしょうか。この数か月は、どの館におかれましても、最近の新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応に追われた時期であったかと思います。その一方で、感染症とそれへの対応・対策の理解を進めることができた期間でもありました。この現在の状況に対応する大学図書館の新しいあり方を構築する上で、私立大学図書館協会も何らかの貢献を果たしたいと考えています。

以上、本年度会長校の館長として、ひとことごあいさつさせていただきました。